

六科の「だるまや百貨店」(昭和20年代)



「だるまや百貨店」は昭和20年代から40年代に六科の四つ角にあった、大きなだるまの看板が目印のお店です。食料品から燃料、衣料、薬品など何でも買うことができたそうで、聞き取り調査では、櫛形在住の方が小さい頃に徒歩でワンピースを買いに来たそうです。

昭和35年、八田村内に大規模な工場ができ、勤め帰りにお買い物をして帰るという客が増え、お店で扱う物も大きく変わっていったようです。

「六科文化史」には多くの方の記憶通り大きなだるまが描かれていました。また、「クラブ」、「カイハツ」と書かれた自動車は六科を行き来していたバスの通称で、「クラブ」は銀色の車体から別名「弁当箱」と呼ばれ、「カイハツ」が右ページのバスとみられます。

六科の四つ角(昭和30年代)



現在の六科の信号を西から眺めた雨の日の写真。水の流れが多く、かつてここが「前御勅使川」であったことを物語ります。昭和29年からこの地で営まれている「秋山油店」(ガソリンスタンド)も写っています。当初はランプの油を一升瓶で買いに来られる方がほとんどで、車のガソリンは右上の写真にある「だるまや百貨店」のオート三輪を含め数台だけの利用だったようです。

油店の隣には「櫛形タクシー」の看板が見え、道を挟んだ北側には「六科」の停留所も見えます。まさに交通の要所であり、また反対側を向いた写真(右下)には食堂「矢時商店」や、南東に少し進んだところにある病院「民生堂」など、人々がお出かけしてくる「四つ角」だったことがわかります。



六科へ おでかけ

六科の四つ角にあった、「だるまや百貨店」前のバス停に停車している通称「カイハツ」の黒緑色のバス。六科と小笠原とを結んでいました。まっすぐ延びる砂利道の奥が平安方面で手前が信玄橋方面です。当時では幅の広い「四間道路」と呼ばれたこの道は現在の県道甲斐戸安線です。写真が撮影された昭和20年代には、道の両脇に黒煙が広がっていたようです。バスの前の母子はおしゃれしておでかけしてきたのでしょうか？

ふるさと
の131
誇り



博レポート

「六科」は、御勅使川が造った扇状地上にあり、田方地域と山方地域とを結び、また主要な街道であった駿河と信州を結ぶ「駿信往還」上にあたることで、古くから市がたち、人やモノが活発に行き交う要所です。

ふるさと文化博物館では昔の思い出話などの聞き取り調査を行なっていますが、その際に必ずお買い物事情もお聞きしています。購入していたモノや場所などからは当時の暮らしがよく見えてくるものです。すると、八田地区内などの地域の方からも必ず名前が出るお店が、かつて六科の四つ角にあった「だるまや百貨店」でした。

「だるまや百貨店」の情報を探る中で、六科に在住していた笹本正孝さんが六科地域の日常を記した「六科文化史」という記録に出会いました(次ページのイラスト)。平成になって作られたものですが、昭和初期の記憶の中の風景をイラストに描き留めたもので、精米所や清水肥料店など、写真に残されていない当時の風景が描かれており、大変価値のある資料といえます。

上の写真は「だるまや百貨店」を経営されていた清水家のアルバムにあった写真です。店先のバス停に停車中の通称「カイハツ」のバスやオート三輪の写真など懐かしい風景が収められていました。イラストと写真としてそこに暮らした方の記憶とを紡いでいくと、当時のまちの様子、活気、人々の息吹さえも感じられます。このような資源を大切に伝えていきたいものです。

写真文 文化財課

南アルス市
ふるさと文化博物館
Furusato Maru-Maru Museum

地域情報の提供や調査へのご協力をお願いいたします。
ふるさと文化伝承館
電話:055-282-7408

ふるさと文化伝承館は、設備の改修工事のため下記の期間休館とさせていただきます。ご迷惑をおかけしますがご理解ご協力のほどよろしくお願い致します。
平成30年6月18日～平成31年2月上旬
※再開の日程は詳細が決まり次第お知らせいたします。また、右上の電話番号は休館中もご利用いただけます。